

橋本： 「私の母が認知症になり、介護施設でお世話になっているのですが、私のことが娘だとわからず、母の姉だと思っているようで、私はその人のフリをしたまま母の相手をした方がいいのか、それとも、娘だと何度も言った方がいいのか迷います。ちなみに、娘だと言った時は否定されました。正直ショックでした。」ということですが、いかがでしょうか？

高野： 本人さんとしては、辛いですね。

橋本： これはやっぱり「娘だと分かって欲しい」という気持ちがありますよね。

高野： その人のフリをしたままとか、娘なのかとか、どちらで接した方がいいかということにあまり捉われない方がいいような気がしますね。まず、日々接していく中で、「お姉さん」あるいは「娘」でなければいけない時もあると思いますが、どちらでもいい時は普通に接して受け入れてくれていけば、こだわらない方がいいです。認知症の人自身が一番ストレスを持っているので、辛い時は認知症の人の方が辛いわけで、その人にとってどちらがいいのかということを考えてあげた方がいいです。

橋本： 自分としては娘として見て欲しいという気持ちがありますけど、お母様の気持ちを考えた時は…

高野： あまり深く考えないで、こちら側の接し方というより、お母さんにとってどういう接し方が望ましいのかを考えて下さい。お母さんがその日一日「良かったな」と思って過ごしてもらえることが重要なんです。認知症を病気としてとらえた時に、認知症という病気を患ったお母さんを「お母さん + 認知症」ときちっと捉えること。認知症を発症したことによって、今まで「出来たことが、出来なくなる」「わかってたことが、わからなくなる」。それも含めて今のお母さんな訳だから、そのお母さんをそのまま受け入れるという気持ちが重要ですね。

橋本： 認知症で大切なことは「否定しないこと」でしたね。

高野： 周りとしては現実でないことを否定したとしても、その人の中では否定されたことが現実だから、それをそのまま受け入れないと本人さんが拒否してしまふ。拒否すると「何でこの人、こんなこと言うんだらう」と嫌な人になってしまう。嫌な人になると、いろんなことの間わりの中で相手が受け入れてくれなくなる。認知症の人と関わっている時に一番大事なことは「受け入れてもらおう」こと。

橋本： 向こうに？

高野： そう、向こうに受け入れてもらおうことが大事です。例えば、看護師として仕

事をしている時だと、検温をさせてくれなかったり、体を拭かしてくれない、おむつを替えさせてくれない、ということになると大変です。コミュニケーションの第一歩としては、まず受け入れてもらうこと。

橋本： 高野さんも「弟よ～」と、誰かと間違えられたりすることがあるんですか？

高野： あります。親子だと辛いこともあると思いますが、僕らはその人に必要なことを提供する仕事なので、弟でも親でも何でもいいんです。後は、嫌われないようにしています。今でも認知症の方と関わりがありますが、毎朝笑顔で「おはよう！元気？」「今日も元気！良かった、良かった」と声をかけると「久しぶりだな～」と言われることがあります。「昨日も会ったんだけどな」という時でも「久しぶりだね」とって。

橋本： 合わせて？

高野： そうです。「久しぶりだね。どれだけ振りだったかな？」って話しをしていく中で、受け入れてもらえれば、まずは「○（まる）」と思います。

橋本： この方「娘だと何度も言った方がいいんですか？」っていうことですがけれども、もしかすると？

高野： 今の段階で言う必要はないのかも知れませんが、逆に穏やかに生活してもらっていくうちに、ふと「この人、娘だ」と返ってくることもある。一番大事なのはお母さんが穏やかに生活して、今日も良かったなって思ってくれば、それにこしたことはない。認知症なので今後どういう展開で進行していくかわからないが、穏やかに生活していることで良いコミュニケーションが構築できると思います。

橋本： お母さんとの時間が、楽しく過ごせればいいですね。

高野さんが考える認知症について大事なことは何ですか？

高野： 難しいと思うんですが、看護師、介護士、一般の方を問わず、認知症ってどういう病気なのかっていうことを、まず理解する。人によって認知症の症状は違いますが、どんな病気なのかを知らないで接していくことが難しくなる。認知症の人と関わっていく時、認知症を嫌がらないこと。僕らより認知症の人の方が辛い思いをしていることは事実なので、その認知症の症状や困った行動があっても、それは認知症の病気がさせていることなので、それを嫌われないこと。病気をきちんと理解して、関係を築いていくことが一番大事ですね。

橋本： 病気がそうさせているんだと思うと、また考え方が変わってきますね。

高野： 自分が悪気があってしていることではないので、認知症という病気がそうさせていることなので、認知症という病気をしっかり理解することですね。

橋本： ありがとうございます。